

令和2年度（第1期試験）

東北大学大学院教育学研究科博士課程

（前期課程・社会人特別選抜）

入学試験問題（小論文）

注 意

- 1 試験時間は120分。
- 2 問題紙は5枚（表紙を除く）、解答紙は4枚。
- 3 設問Ⅰ（1）（2）、設問Ⅱ（1）（2）の解答はそれぞれ別の用紙に記入すること。

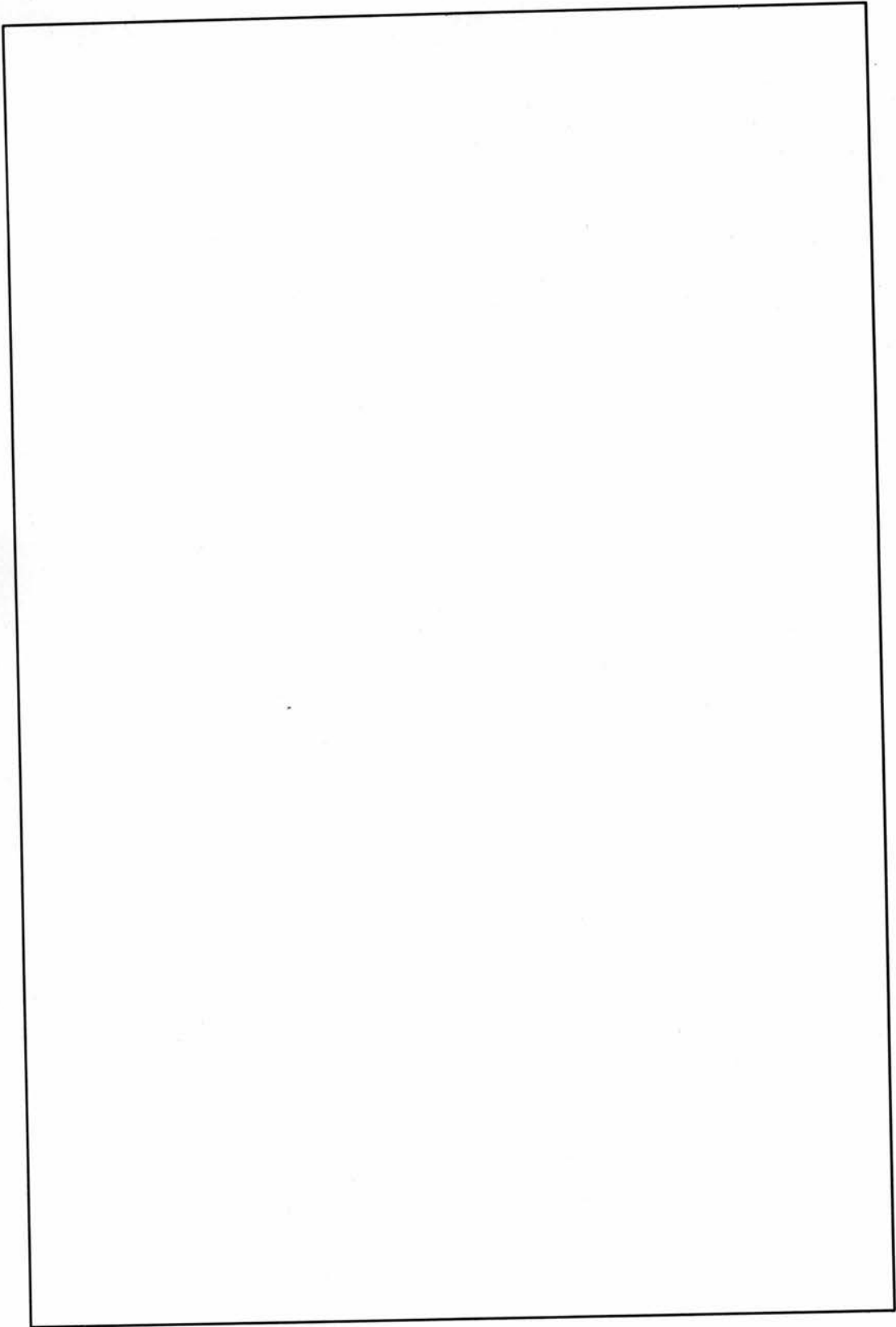
設問 I

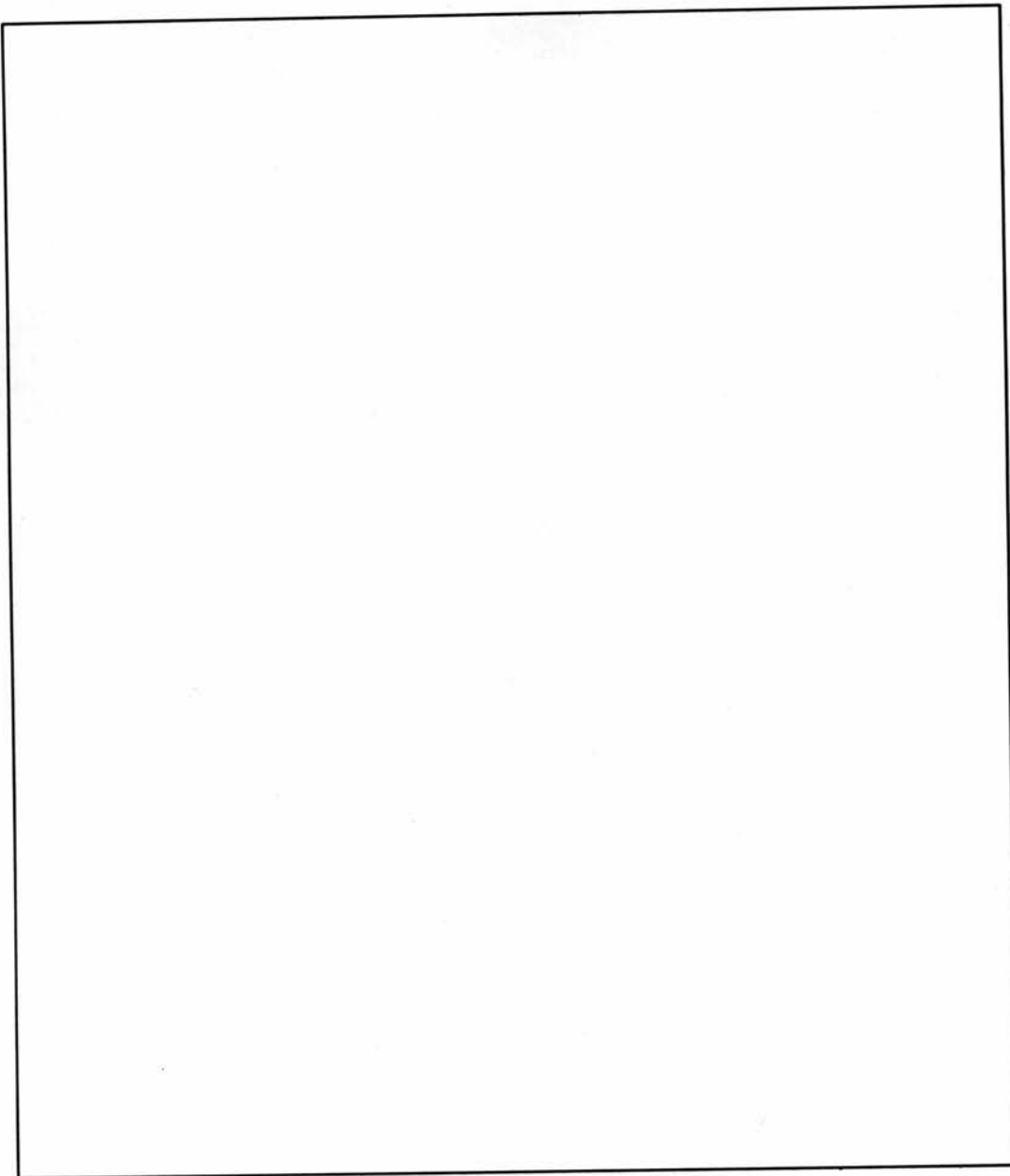
次の文章はホームレスの人々の社会的処遇に関する書籍の一部である。本文を読み、(1)・(2)に答えなさい。

(1)下線部「公私の論理の転倒」とは具体的にどのようなことを指しているのか。本文の内容に基づいて、300字程度で答えよ。

(2)本文の内容を踏まえ、ホームレス問題について論じなさい。

ここに当該文献の  
16ページ、14行目から、  
20ページ、7行目まで、  
が、入ります。





(笹沼弘志『ホームレスと自立／排除』大月書店、2008年より抜粋。一部改変。)

設問Ⅱ

資料1は、平成25年度から29年度までの都道府県別に見た児童生徒（小学校・中学校・高等学校・特別支援学校）1,000人当たりのいじめの認知件数（‰）の上位5都道府県名・下位5都道府県名などを示している表である。

資料2は、国立教育政策研究所によるいじめに関する調査結果を報道した新聞記事である。

- (1) 資料1から、読み取れることを述べなさい。
- (2) 資料1と資料2を踏まえつつ、いじめの実態を把握する上で注意すべきことについてあなたの考えを述べなさい。

【資料1】

表 在籍児童生徒数に対するいじめ\*1の認知件数の上位及び下位5都道府県

順位	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	都道府県	‰	都道府県	‰	都道府県	‰	都道府県	‰	都道府県	‰
1	京都府	99.8	京都府	85.4	京都府	92.0	京都府	96.8	宮崎県	108.2
2	鹿児島県	72.0	宮城県	69.9	宮城県	70.8	宮崎県	85.7	京都府	90.7
3	宮崎県	71.5	宮崎県	66.0	山形県	48.4	宮城県	77.9	宮城県	79.5
4	宮城県	69.2	千葉県	39.9	宮崎県	47.2	沖縄県	57.8	新潟県	74.6
5	千葉県	31.2	山形県	36.5	千葉県	45.6	山形県	56.6	沖縄県	60.7
.....										
43	福岡県	2.6	香川県	4.5	東京都	5.4	福岡県	9.1	熊本県	12.1
44	鳥取県	2.4	兵庫県	4.2	福岡県	5.3	富山県	8.9	石川県	10.8
45	香川県	2.4	福島県	4.1	広島県	5.1	広島県	7.3	香川県	10.2
46	佐賀県	2.3	埼玉県	4.0	香川県	4.5	佐賀県	5.6	富山県	8.5
47	福島県	1.2	佐賀県	2.8	佐賀県	4.5	香川県	5.0	佐賀県	8.4
平均		13.4		13.7		16.5		23.8		30.9

\*1本調査において、個々の行為が「いじめ」に当たるか否かの判断は、表面的・形式的に行うことなく、いじめられた児童生徒の立場に立つて行うものとする。「いじめ」とは、「児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童生徒と一定の人的関係のあ

る他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの。」とする。なお、起こった場所は学校の内外を問わない。

## 【資料2】

### 暴力ない「いじめ」、小学生の9割経験 国研調査

小学生の88.5%が3年間で少なくとも一度は仲間外れや無視、陰口といった「暴力を伴わないいじめ」を受けていたとする調査結果を、国立教育政策研究所が23日までに発表した。同時期に加害行為をした小学生は78.5%だった。

担当者は「多くの子供が入れ替わりながらいじめに巻き込まれる状況が続いている」と指摘した。

調査は2013～15年、首都圏にある市の全小中学校19校で実施。児童・生徒に年2回アンケートし、直近3カ月間のいじめについて聞いた。15年度に小学6年生だった644人の場合、570人（88.5%）は小4以降の計6回のアンケートのうち1回以上で「暴力を伴わないいじめを受けた」と答えた。6回とも被害経験なしは74人（11.4%）だけだった。

加害経験については、506人（78.5%）が1回以上ありと回答。6回ともなしは21.4%だった。12年度に同じ市で小6の児童703人に聞いた調査では、1回以上ありとしたのは602人（85.6%）だった。

加害行為が減ったことについて担当者は「いじめが社会問題化し、校内の機運が高まって早期発見や早期対応につながった可能性がある」と分析している。

（日本経済新聞 2016年7月23日）

出典：【資料1】児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（平成28年度～平成29年度）及び児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸課題に関する調査（平成25年度～平成27年度）

<https://www.e-stat.go.jp/> 2019年8月20日アクセス

【資料2】 [https://www.nikkei.com/article/DGXLASDG22H79\\_T20C16A7CC0000/](https://www.nikkei.com/article/DGXLASDG22H79_T20C16A7CC0000/)

2019年8月23日アクセス

令和2年度 (第1期試験)

東北大学大学院教育学研究科博士課程

(前期課程・一般選抜および社会人特別選抜および  
外国人留学生特別選抜)

臨床心理学コース

入学試験問題 (専門科目)

注 意

1. 試験時間は120分。
2. 問題紙は1枚(表紙を除く)、解答紙は5枚。
3. 解答は所定の用紙に記すこと(設問Ⅰ～設問Ⅲの解答は各1枚の解答紙を用いて、設問Ⅳの解答は2枚の解答紙を用いて、(1)～(4)を1枚目、(5)～(8)を2枚目に記入すること)。

……………臨床心理学コース……………

- 【設問Ⅰ】 自殺について世代別に論じなさい。 (20点)
- 【設問Ⅱ】 養育者による子どもへの不適切な養育 (maltreatment) について、その背景要因と共に解説しなさい。 (20点)
- 【設問Ⅲ】 教育領域における心理職の役割について述べなさい。 (20点)
- 【設問Ⅳ】 以下の用語をそれぞれ5行程度で説明しなさい。 (各5点)
- (1) 児童福祉法
  - (2) PTSD
  - (3) ライフサイクル理論
  - (4) セルフ・ハンディキャッピング
  - (5) 動作法
  - (6) フォーカシング
  - (7) STAI
  - (8) 妥当性

(以下余白)